北滿洲黑河產のクモに就いて

仲　辻　耕　次

東京農業大學動物學敎室

滿洲國の蜘蛛類は近時吾が國の人々に依つて研究調査せられて漸次明に成つて來た事は喜しい次第である。昭和9年には岸田久吉氏，同11年，12年及13年には齋藤三郎氏に依つて，近くは本誌上に關口晃一氏及八木沼健夫氏に依つて發表せられた。筆者は先に北滿黑河に勤務して居た時に採集を試みて得た標本に基付いて書いて見度いと思ひます。先づ黑河の氣象其の他に就いて申上げたい。北滿特に黑河は又一名大黑河とも云はれ滿洲第2の嚴寒の地とされてゐます。筆者が在勤當時も最低溫度零下48度（攝氏）に達した事がありましたのでも寒氣の程度も大體想像して頂けると思ひます。流れ豐な黑龍江も9月下旬には凍結し，解氷は明けて五月上旬にならねばならぬ始末で一年の約2/3は氷の中の生活と云つた具合で從つて動物の種類も個體數も非常に僅少であります。然し五月ともなれば春の陽射しになり之の月から愈動物の活動が始まり9月半迄續けられる。即ハタリス及北滿大モグラの活潑なる活動が認められると共に植物の方では御花畑の店開きが始まります。各種の群落が次々に咲き初めて壯觀を呈します。即ちサクラサウ，タンポヽ，野生のアヤメ類，鈴蘭，百合類及シヤクヤク等で，7月半にはキキヨウの花と共に秋に入ります。六月下旬に至りますと夜は午前2時近くには東の空は白み，其の前に既にヒバリが囀り，日の暮れるのが午後9時半頃でありまして10時頃までヒバリの囀りを又聞く事があるのであります。冬は之に反する事は勿論であります。眞正蜘蛛類の採集した數も少いのでありますが其の內既知種のみを簡單且平易に書いて見たいと思ひます。

Family Eresidae

Genus *Eresus* Walckenaer

1. *Eresus niger* (Petagna)　イハガネグモ〔第1圖A, B〕

別　名　*Eresus cinnaberinus* Walckenaer

Eresus 4-guttatus Hahn

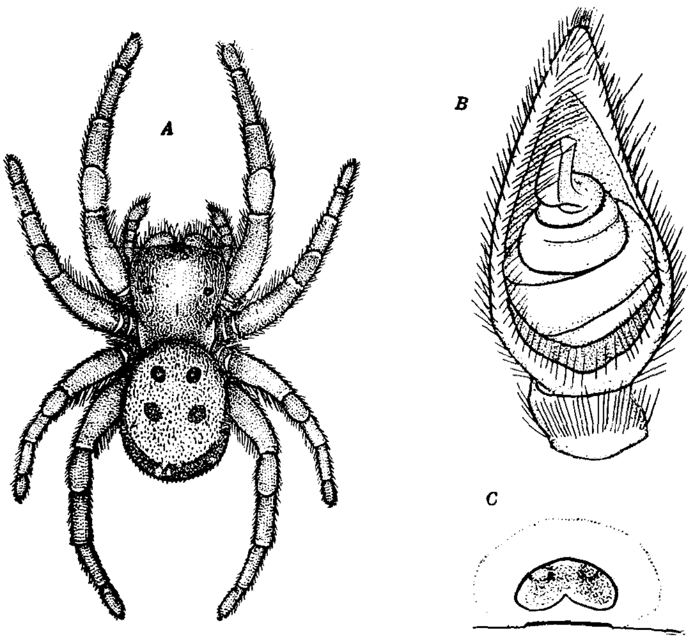
♂　長は 1.2 mm 內外にして頭胸部は黑褐色．腹部背面は朱紅色地に 4 個の黑斑點を有する鮮美な體の持主である（腹部背面の黑斑點は歐洲產のものには 6 個のものがある)。

背甲は前廣がりの略四角形，前部 2/3 には特に隆起して其の後方は後緣に斜面を作つてゐる。中窩は後緣より 1/3 の所にあつて凹性である。頸溝及放射條は認められる。眼は背甲の前部 1/3 を占めてゐる。配列は 4—2—2 の 8 眼即 3 列を作つてゐる。第 I 列眼は前緣近くに存在して，中眼は中央に，側眼は遠く離れてゐる上に毛を以て被れてゐるから發見し難い。各眼の比は前中眼：前側眼：後中眼：後側眼＝1.5：1.5：3：2，距離の比は前中眼間：前中—側眼間：後中眼間：前中—後中眼間：後側眼間 ＝ 3：20：7：30：43. 額は前中眼の直徑に等しい。口部は黑褐色を呈してゐる。上顎は頑丈にして外髁を具へ．牙堤前端には强大なる 1 齒を具へてゐる。下顎は平行，長は幅の 2 倍長である。下唇は舌狀．長＞幅（15：11)。胸板は長心形，長は幅の約 2 倍にして第 II 基節間が最も廣い。長毛を全面に具へてゐる。步脚は頑丈 黑褐色であるが第 II 腿節．第 III と第 IV 步脚は朱色の毛を以て被はれ 第 IV 脛節には櫛狀毛を有する。各蹠節端には 3 爪を備へてゐる。腹部は長が幅に僅に優る楕圓形，背面は朱色の毛が密生して其の中に 2 對即 4 個の黑褐色斑點を具へてゐる。腹面は黑褐色を呈する。蛛疣 3 對と 2 分せられてゐる篩疣を存してゐる。

採集地　黑河の山地に於て彷徨してゐる雄 4 頭を採集した（IX. 1939)

Family Theridiidae

Genus *Theridion* Walckenaer



第1圖 A. *Eresus niger* (Petagna) ♂; B. 同觸肢
C. *Theridion impressum* L. Koch ♀の生殖門

2. *Theridion impressum* L. Koch　キタヒメグモ〔第1圖C〕

♀ 長は4－5mmの小形の蜘蛛である。背甲は黄褐色地に正中線及側縁には太い黒條が縱走してゐる。尋常にして中凸性であるが中窩より後方は斜面をなしてゐる。中窩は心形の凹性である。頸溝及放射條は明瞭である。額は前中眼の直徑の3.5倍，眼は各ゝ等大にして，前眼列は强く前曲（⌒），後眼列は僅に後曲（⌣）してゐる。中眼域は殆ど正方形を成してゐる。上顎は黄褐色にして尋常。下顎は暗黄褐色，下唇を圍んでハ狀である。下唇は下顎と同色であつて略五角形，下顎の1/3に達してゐる。胸板は三角形にして側緣は黑條を以て

緣取られてゐる。歩脚は細く弱い。腹部は球形，前面は淡黄褐色地に大きい矢狀の白斑紋及其の上に數對の黑色の橫長斑を具へてゐるが後の 3 ー 4 對が殆ど連續して條斑をなしてゐる。腹面の亞側緣中央に各〻 1，蛛疣の前に大なる黑斑紋 1 を具へてゐる。歩脚の第 4 蹠節下面には鋸齒毛列がある。

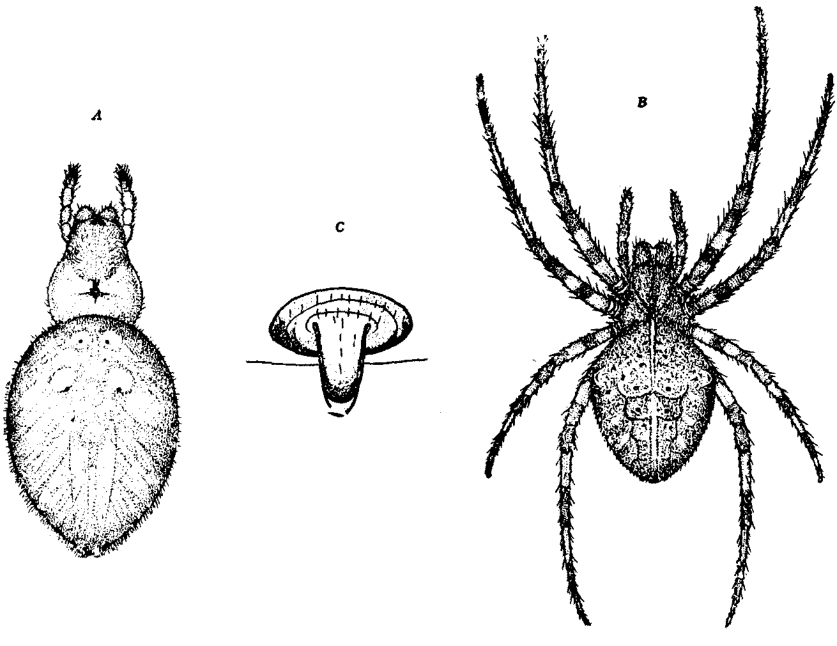
採集地　黑河山地帶（VII. 1938）

Family Argiopidae

Genus *Araneus* Clerck

3. *Araneus quadratus* Clerck　　アカオニグモ〔第 2 圖 A〕

♀　長は 18mm 內外の黃褐色の大形種である。背甲は稍中凸性の黃褐色 正中線を暗色條が走り，中窩は凹性の十字狀，頸溝及放射條は明かである。眼は前及後列とも強く前曲（へ），兩側眼は相接してゐる。中眼域の前幅は後幅の 2



第 2 圖　A. *Araneus quadratus* Clerck　♀

B. *Araneus angulatus* Clerck　♀；C. 同生殖門

倍，長は幅より大きい。上は黄褐色，頑丈にして前及後牙堤に大3齒及小1齒を具へてゐる。下顎は黒褐色の幅廣い葉狀にして前方に開いてゐる。下唇は黒褐色の半圓形である。胸板は黒褐色の心形，長は幅より大きい。歩脚は頑丈，黄褐色地に赤褐色の輪紋を具へてゐる。腹部は黄褐色の倒卵形，背面には特有の大小の黄色圓斑を多く具へ，側及後斜面は稍赤味を帶びてゐて且つ細條が多數走つてゐる。生殖門には長い前垂體を具へてゐる。蛛疣は黒褐色にして3對も間疣を具へてゐる。

採集地　黒河 (VIII. 1938)

4. *Araneus angulatus* Clerck　カドオニグモ〔第2圖 B, C〕

♀ 長は45mm內外の割合に大きな中形種で褐色乃至黄褐色を呈してゐる。背甲は黄褐色地に正中線には暗褐色條縱走して亞側緣には短大な黒褐縱斑がある。全面には白毛を具へてゐる。中窩は凹性の横長である。眼は兩列とも前曲(︵)，前中眼は最大にして他は殆ど等大，中眼域は逆梯形，前幅は長に等しい。前幅は後幅の1.5倍である。顎は赤褐色，頑丈にして外髁は大く1/3を占めてゐる。前牙堤に4齒，後牙堤には3或は4齒を具へてゐる（左右に依つて1齒の增減を見る事がある)。下顎は暗褐色，內側は淡色，葉狀形にして略平行，前緣は端正である。下唇は黒色にして略五角形，下顎の1/2に達する。前緣は淡色である。胸板は暗褐色心形，正中線には太い黄色條斑が縱走してゐる。步脚は暗黄褐色に赤褐色の環紋を具へてゐる。刺も强く多い。腹部はノシ形の四角形，背面は黄褐色地に褐色の葉狀斑を具へ，兩肩部に鈍尖な突起を具へてゐる。腹面正中線には太い黒條縱走してゐる。其の前部には黄色の大な半圓狀斑と其の後方に小なる斑點を具へてゐる。

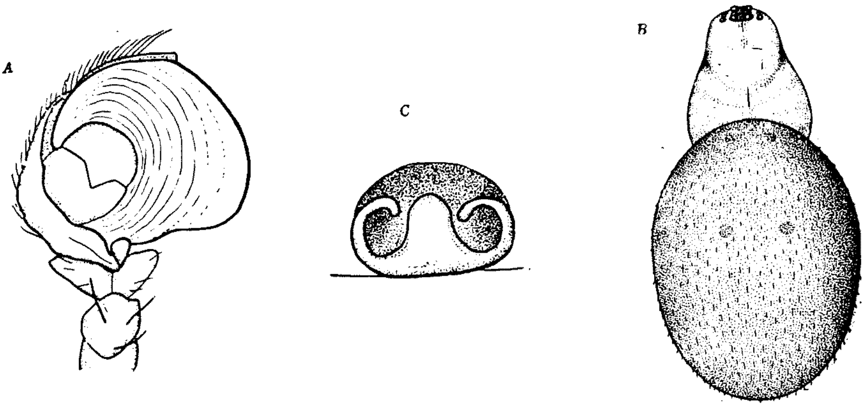
採集地　黒河街內 (VIII. 1938)

5. *Araneus displicatus* (Heutz)　ムツボシオニグモ〔第3圖 A〕

♂ 長は4—5mmの小い蜘蛛である。背甲は淡黄褐色地に亞側緣には暗色條が縱走してゐる。頭部は例に依つて前方に突出してゐる。兩側緣は圓く外曲(( ))してゐる。頸溝は殆ど見分け難い。放射條は明に認められる。中窩は他のものと違つて十字狀をなしてゐる。眼は2列，前眼列は前曲（︵），後眼列は端直で等大である。口部は暗黄褐色を呈してゐる。上顎は弱く小い。前及後牙堤に3齒を具へてゐる。下顎は葉狀の端大，內側は平行である。下唇は三角形にして下顎の1/3に達する。胸板は心形である。觸肢の膝節前緣には2,後緣には1本の

長刺を具へ，脛節は2叉してゐる。歩脚は黄褐色を呈してゐる。腹部は灰黄色で略楕圓形と云ふよりむしろ球形に近い。前縁には刺毛を疎生する。後半部には3對の黑斑點を具へてゐる。

採集地　黑河山地帶 (VI. 1940)



第3圖　A. *Araneus displicatus* (Hentz) ♂の觸肢
B. *Singa sanguinea* C. Koch ♀ ; C. 同生殖門

Genus *Singa* C. Koch

6. *Singa sanguinea* C. Koch　　キタヒメオニグモ〔第3圖 B, C〕

♀　筆者の採集したのは學名と似もつかぬ黑化現象を呈してゐる光澤ある美しい蜘蛛である。長は 4mm。背甲は赤褐色にして眼部は黑色を呈してゐる。頭部は隆起して後方に向つて斜面をなしてゐる。中窩は逆八狀をしてゐる。頸溝及放射條は明である。上顎は淡赤褐色，前及後牙堤には各3齒を具へてゐる。下顎は暗赤褐色，葉狀にして平行してゐる。下唇は暗赤褐色，五角形にして下顎の 1/2 に達してゐる。胸板は暗赤褐色，三角形で僅に中凸してゐる。腹部は楕圓形で全體は黑一色であるが擴大して見ると灰白色の細い短條及點斑を不規則に疎在してゐる。腹側面には多くの褶襞を作つてゐる。生殖門は大形の山字狀を形造てゐる。蛛疣は腹面後縁の 1/4 の所に存在してゐる。

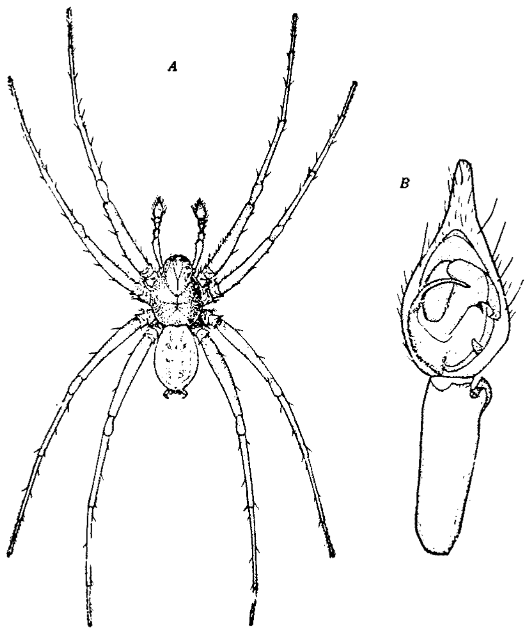
採集地　黑河街 (VIII. 1938)

Family Agelenidae

Genus *Tegenaria* Latreille

7. *Tegenaria domestica* (Clerck)　　イエオニグモ〔第4圖〕

♂　長は 8.5 mm，體の割合に步脚の細長い蜘蛛である。背甲は黃褐色の中凸性にして眼部は前緣中央に在つて頭部幅の 1/2 を占めてゐる。前眼列は殆ど端直，後眼列は後曲（︶）中眼域の長>幅，兩側眼>後中眼>前中眼である。頸溝及放射條は明かである。額は前中眼の 2 倍に等しい。口部は赤褐色を呈する。上顎は前牙堤に 2 齒及叢毛を具へ 後牙堤には 4 齒を具へてゐる。下顎は平行，長は幅の 2 倍に等しい。下唇は舌狀にして下顎の 1/2 に達する。胸板は暗黃褐の心形，長>幅，後緣は第 IV 基節間に半ば挿入してゐる。步脚は赤褐色にして脛節より末端部は淡色にして多くの刺を具へてゐる。觸肢の外側面に大小 2



第4圖　A. *Tegenaria domestica* (Clerck) ♂；B 同觸肢

個の突起を具へてゐる。腹部は卵形, 淡褐色地に暗色の波狀斑を具へてゐる。蛛疣は3對 後疣は2節より成り長い。

採集地 黑河山地帶 (VI. 1940)

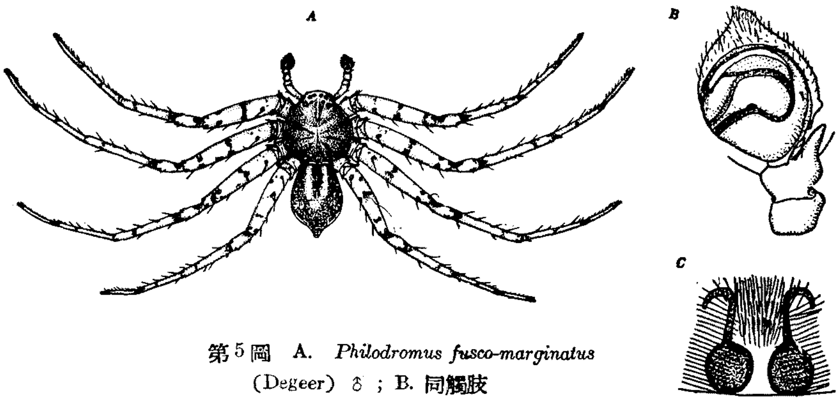
Family Thomisidae

Genus *Philodromus* Walckenaer

8. *Philodromus fusco-marginatus* Degeer トビイロエビグモ 〔第5圖 A, B〕

♂ 長は 5.5 mm, エビグモとしては尋常の大さである。背甲は黑褐色扁平の半圓形で幅は僅に長に優つてゐる。頸溝及放射條は明かである。中窩は第 III 步脚の線に縱走してゐる。兩眼列は共に前曲(⌒), 前眼列は特に强い。後側眼は後中眼の2倍にして前列眼の何れよりも大である。口部は黑褐色, 上顎は短小である。下顎は下唇を圍んでハ狀である。下唇は舌狀で下顎の 2/3 に達してゐる。胸板は淡黃褐色の心形, 長＝幅であつて第 IV 基節間に半挿入してゐる。其基節間は廣く離れてゐる。步脚は横行性, 淡黃褐色地に黑褐斑紋を具へ, 刺も多く存してゐる。觸肢の脛節の外側には大なる1突起と之に附隨する1突起を具へてゐる。腹部は略五角形にも見える。背面は黑褐色地に中央に灰白色の大な V 斑紋を有してゐる。兩側面は褶襞を作つてゐる。腹面前部は灰色, 後半部は狀褐色地に亞側緣を縱走する條斑及中央には筋點列を含む五角形斑紋を形成してゐる。

採集地 黑河山地 (VI. 1940)



第5圖 A. *Philodromus fusco-marginatus* (Degeer) ♂ ; B. 同觸肢
C. *Philodromus rufus* Walckenaer ♀の生殖門

9. *Philodromus rufus* Walckenaer　キタエビグモ〔第5圖 C〕

♀ 長は4.5mm，背甲は灰色地に褐色放射條は中窩を中心として走つてゐる。眼は等大にして前眼列は強く 後眼列は僅に前曲（⌒）してゐる。額は前中眼の直徑の約4倍である。上顎は黄褐色で大きくない。下顎はハ狀，長は幅の2倍である。下唇は稍暗色を呈する舌狀をしてゐる。胸板は灰白色の心形で後端は鈍圓にして第IV基節の間に半ば挿入してゐる。歩脚は黄褐色地に小褐色斑點を散布してゐる 腹部は略五角形，背面は灰白色に明に筋點及後緣近くに1對の褐色斑紋を具へてゐる。腹面には小坎を多く散在してゐる。蛛疣は黄褐色を呈してゐる。生殖門は圖の如くである。

採集地 黑河山地帶（VI. 1940）

Family Salticidae

Genus *Jotus* L. Koch

10. *Jotus abnormis* Bösenberg et Strand　チヤイロアサヒハヘトリグモ〔第6圖 B〕

♀ 長は5mm の割合に小形のハヘトリグモである。背甲は前狹後廣の長方形にして中窩より後方は斜面を作つてゐる。眼域は一見黑色の馬蹄形を作つてゐる。第2列眼は第一，眼列の中央より僅に前に存在してゐる。鱗毛は細形であつて眼域內のものは白く，他の部分のは黑色である。上顎は前牙堤に2齒，後牙堤に1齒を具へてゐる。下顎は前廣にして下唇を圍んで前方に相寄つてゐる。下唇は舌形 下顎の1/ に達してゐる。胸板は長心形，第2基節間が最も廣い。歩脚は頑丈ではない。各節下面の刺は：蹠節 I 2—2, II 2—2, III 2—1, IV 2—1；脛節 — —，II 2—1—2, III 2, IV 2. 腹部は倒卵形にして中央に最大幅がある。灰黄色地に前部に1對の黑斑紋が縱に走り，後半部には矢筈狀を作る4對の黑斑紋がある。腹面正中緣には虛點條斑が縱走してゐる。

採集地 黑河山地帶（VI. 1940）

Family Clubionidae

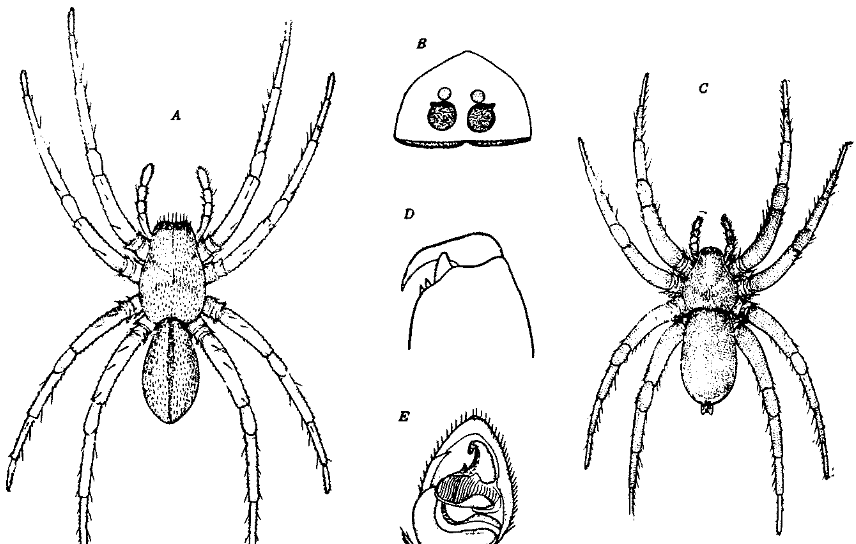
Genus *Clubiona* Latreille

11. *Clubiona subinterjecta* Strand　ブシフクログモ〔第6圖 A〕

♀ 長は6.5mm の中形種である。背甲は赤褐色の前狹後廣の略4角形にして全面に白毛を密生してゐる。前眼列は端直，後眼列は僅に後曲（⌣），頸溝は稍不明瞭，放射條は明に存してゐる。中窩は第3歩脚の線にあつて縱走してゐる。

上顎は暗赤褐色にして細く，前牙堤に微小齒3大齒1，後牙堤には微小齒1大齒2を具へてゐる。下顎は黄褐色にして僅に前廣の長方形，平行してゐる。下唇は暗赤褐色，前狭の略4角形，前縁は截形，下顎の1/2に達してゐる。胸板は暗赤褐色にして長心形である。步脚は稍細長にして多くの刺を具へ 蹠節端には2爪と總毛を具へてゐる。各節の下面の刺は：蹠節 I 及 II 2, III 及 IV 2—2. 脛節 I 及 II 2—2, III—IV 2—2, 腹部は卵形にして長は幅の約2倍．黄褐色地に正中線に褐色條が縦走してゐる。全面に淡黄褐色毛を密生してゐる。

和名をブシフクログモと名付けたのは1907年にStrand氏に依つて黒河の對岸ブラゴエチエンスク市より記錄せられた故を以てである（ブシは武市とも書き又現地では略稱として呼んでゐる)。筆者は黒龍江岸に自生してゐる葦に似た植物の葉を巻いて其の中に棲息してゐるもの多數を採集した。概ね禾木科植物の葉を巻いて其の中に住んでゐる。



第6圖

A. *Clubiona subinterjecta* Strand ♀

B. *Jotus abnormis* Bösenberg et Strand の生殖門

C. *Calliplepis nocturna* (Linnaeus) ♀ ; D. 同上顎 ; E. ♂の觸肢

Family Drassidae

Genus *Calliplepis* Westing

12. *Calliplepis nocturna* (Linnaeus)　　キバイタチグモ　〔第6圖 C, D, E〕

♂　長は 4—5 mm の眞黑な蜘蛛であつて山地の道路上をよく彷徨してゐるのを見掛けた。背甲は黑褐色の略三角形をして僅に中凸してゐる。頸溝及放射條は明に存してゐる。中窩は第3基節の線を縱走してゐる。眼は兩列とも殆ど端直．前中眼は最小であつて其中眼間は其の直徑の 1.5 倍離れてゐる。側眼も中眼は接近してゐる。後中眼は 3 角形であつて其の直徑の 2/3 だけ離れてゐる。後側眼＞後中眼＞前側眼＞前中眼である。額は前側眼の直徑の 3 倍である。上顎は暗黃褐色，後牙堤端には巨大な大齒 1 及他に小齒 2 を具へてゐる。下顎は暗褐色にして下唇を圍みハ狀，略 3 角形にして基部は隆起してゐる。下唇は暗褐地，短舌狀である。胸板は黑色の心形，中凸してゐる。腹面は黑褐色の五角形，背面には 3 對の筋點及 3 對の白斑紋（白毛を密生する）を有する。腹面は書肺上のみ黃褐色，他は背面色である。後疣の太は前疣の2/3，中疣のは前疣の1/2に等しい。前疣は特に廣く離れてゐる。

採集地　黑河山地に於て 9 月の頃多く見受けられる。

主要なる參考文獻

1. 1757　Clerck, Svenska Spindlar.
2. 1831—48　Hahn u. Koch, C., Die Arachniden.
3. 1866—77　Menge, A., Preussischen Spinnen.
4. 1874—84　Simon, E., Les Arachnides de France.
5. 1875　Koch, L., Arachniden aus Sibirien u. Novaja Semlja.
6. 1892—97　Chyzer u. Kulcznski, Araneae Hangaria.
7. 1903　Bösenberg, Die Spinnen Deutschlands. 〔Zoologica, H. 35〕
8. 1907　Strand, Vorläufige Diagnosen süs- u. ostasiatischer Clubioniden. 〔Zool. Anz. xxxi〕
9. 1928　Переаешава, В. И., Fauna of spiders in the environs of the Biological Station at Bolshevo.
10. 1929　Roewer, C., Araneae 〔Die Tierwelt Mittereuropas III, 6〕
11. 1931　Wiehle, H., Tierwelt Deutschland. Teil 3 u. 23.
12. 1932　Charytonov, D., Katalog der Russischen Spinnen.

13. 1934 岸田久吉，興安嶺の蜘蛛〔動雑，第46巻. 第553號〕
14. 1936 齋藤三郎 眞正蜘蛛目〔第一次滿蒙學術調査研究團報告〕
15. 1938 Saito, S., Arachnida of Manchoukuo III〔Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. XV.〕
16. 1940 關口晃一，滿洲産の蜘蛛數種〔Acta Arachnol. V, 1.〕
17. 1940 八木沼健夫，滿洲國黒河省産の蜘蛛〔Acta Arachnol. V, 4.〕

フィリッピン，ジャバ 及ボルネオ産のトゲグモ數種に就いて

仲 辻 耕 次

東京農業大學動物學教室

吾國に敵對せる南方共榮圏内の諸國も吾が忠勇無比なる皇軍の奮戰に依つて降服し今や南方諸國は更生の第一歩を踏み出した事は誠に慶賀に堪へません。是等の占領せられた南方諸國の蜘蛛も吾々に取つては珍稀なものが非常に多いのであるが 其の内筆者の手元にあるフイリツピン諸島，ジヤバ及ボルネオ産のトゲグモ數種を紹介して同好諸君の御參考に供し度い。是等の標本は農學士明石哲三畫伯の採集品にして東京農業大學標本室の所藏のものである。内一種ボルネオナガトゲグモは慈惠會醫科大學講師羽根田彌太氏（昭和13年）が採集せられしものを理學士高島春雄氏より惠贈せられしものである。玆に前記採集に從事せられたる明石哲三氏と羽根田彌太氏並に高島春雄氏に厚く御禮申上る次第である。

記載は種名を判定し得る程度に簡單に主として腹柄の印刻に就て概ね岸田久吉氏の印刻記載法（Acta Arachnologica Vol. II, No. 4, p. 139. 1936）に依て記載する事とした。

Family Argiopidae

Genus *Tatacantha* Simon